

ふじ生産基盤の若返りへ

りんご・もも部会新聞

小雪が舞う、12月3日（水）にJAりんご大苗養成ほ場（越 小林邦明氏園）にて、本年養成したふじ2年生苗木の掘り取り及び配布を行いました。今回の掘り取り作業は、JA職員のほか、JAりんご・もも部会生産指導部6名の協力を得て行われました。

本年の養成数は、百年ふじ（マルバ付き）482本、百年ふじ（JM7台）165本、長ふ12号259本、らくらくふじ153本と新わい化栽培用のM9ナガノ台木166本の合計1225本。4月11日に定植作業を行い、約8カ月かけて養成を行ってきました。春先の乾燥、夏季の日照不足等大変厳しい栽培環境でしたが、大きな枯れこみもなく、順調に生育しました。

掘り取り作業は、午前中で完了し、午後1時過ぎから注文者への配布が現地引き取りで行われました。掘り起こされた苗木は、発根数も多く、樹勢も良いため、受け取った方も評価も大変良く、次年度以降も継続的に養成事業を行って欲しいとの要望も多々寄せられました。また、苗木の出来が大変良いため、追加で注文する生産者も多々いました。配布は当時夕方方までに全て終了しました。

JAりんご大苗養成事業は、平成17年から始まり、本年度10年目を迎えます。養成は、開始当初から、越の小林邦明氏のほ場をお借りし継続して行われている事業です。毎年、約千本を養成・配布し、10年間の合計で養成数一万本、供給面積で50畝の実績となっています。ほ場には、きのこ生産で排出されるコンコブ残さを毎年12月に2トトラック10台分を投入し、土作りを行っています。毎年、有機質堆肥を投入することで、土壌の弾力性・通気性が良くなり、発根数が多く、良品質な苗木を育成することが出来ます。

養成事業開始当初は、中生品種（秋映・スイート・ゴールド）を中心に行ってきましたが、主力品種のふじの生産基盤の維持・拡大を目的として、3年前からふじ優良系品種の養成に切り替えました。また、昨年から地元越地区で選抜育成された百年ふじの養成も開始し、早期の産地基盤育成を行っています。

生産者の高齢化・老木化により、ふじ生産基盤の弱体化が顕著であり、この生産基盤を維持・拡大するためには、安定的な苗木供給による園地の若返りを積極的に図ることが重要です。生産現場からの要望が多いため、今後養成事業を継続する予定です。

最後になりましたが、良品質な苗木を育成するために尽力頂いた小林邦明氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

発行

りんご・もも部会

生産指導部

問い合わせ先

営農センター

TEL 23-3933



← 養成した苗木を3人1組で掘り取り。弾力性のある土壌なので、楽に引きぬける。



← 本年の養成本数は1,225本。樹勢が良い苗木が揃っている。



← 定植時に、根切りを十分に行い、骨粉を付けた。掘り上げ時には細根数が多く発生。



← 掘りあがった苗木は、5本1束に仕分けされた。どの苗木も発根数が多い。

